

平成 28 年度 第 1 回図書館セミナーを開催いたしました

医学図書館は平成 28 年 7 月 27 日 16:00-17:30 保健学科棟 211 講義室にて医学科解剖学 中根裕信先生を講師に図書館セミナー「知りたい」-自分の身体を使ってでも、自分の身体を知ろうとした- を開催しました。

はじめに「自分の体で実験したい」という本に、驚愕するような自分の身体を使った実験が多く掲載されていると紹介されました。その第 2 章「袋も筒も飲み込んだ男」のラザロ・スパランツァーニ医師が行った消化に関わる実験についてお話がありました。まず参加者に、「体の中に入った食物の消化はどうすれば調べられると思いますか？」との質問に、会場からは「食物に色を付け飲み込む」、「マーカーのような物を入れる」などの回答がでました。当時(18 世紀)はまだ消化の仕組みは未知の世界で、「消化器系に特別な生命力が宿る」、「胃液は火で燃える」等の説がありました。当時の学者は、ほんの数回の不十分な実験を行い、当て推量をする場合も多かったそうです。一方、スパランツァーニ医師は、袋や筒の容器に食物を入れ蓋を縫い付けて飲み込むという方法で食物の消化を調べました。それも一度だけでなく、容器を変え、中の食物を変え、ついには便中の未消化の食物の容器を再度飲み込んだりして、繰り返し納得がいくまで実験と観察を行い、消化に関する重要な発見に至ったとのことでした。最近でもノーベル医学・生理学賞を受賞したオーストラリアのバリー・マーシャル博士が、ピロリ菌の感染によって胃潰瘍ができることを証明するために、自分で菌を飲んで証明して見せたことなど体をはった実験エピソードを紹介され、今でも時に「自分の体で実験する」こともあることに、皆驚きをかくせませんでした。

次に、「ジェネティック・ラウンズ」の「第二章 虐待」の紹介がありました。生まれながら骨がもろく骨折しやすい骨形成不全症という病気とその症状について解説がありました。生後 2 週目のメリッサちゃんは骨折がわかり、骨形成不全症による骨折と虐待による骨折が病院の医師によって間違われたことから、歯車がずれて家族がぎくしゃくするというお話でした。そこから医療従事者の判断が患者さんに与える影響は大きく、医学の専門分野だけでなく、社会状況等も考慮して診断や治療にあたらなければならないとのことでした。この本のマリオン先生のお話から、医療は知識だけでなく豊かな人間性(人格、知力等)が重要になる場面もあると感じました。

医学図書館では、学生さんに人体への理解を深めていただき、幅広い教養と人間力を身に付けていただく契機となるよう今後もこのような企画を計画して参ります。

- 参考図書 「自分の体で実験したい：命がけの科学者列伝 / レスリー・デンディ他 [著]
梶山あゆみ訳, 紀伊國屋書店, 2007.2」
「ジェネティック・ラウンズ / ロバート・マリオン著 ; 中川奈保子訳
メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016.3」



医学図書館では常時人体模型等の展示・貸出を行っています。
ご来館いただき実際に見て・触って・知って学習にお役立てください。